# 図書館友の会 ニュース

2023年
4月号
No. 26

発行　岸和田市図書館友の会　《発行責任者　松谷　敬一》


## 図書館友の会 公開講演会

## 新型コロナウイルスの「進化」と今後

**講師：杉原　富人氏（図書館友の会副会長，学術博士）**

新型コロナウイルスは、私たちの眼前で「進化」を繰り広げています。次々と変異株を出現させ「進化」する秘密は何か？　今後このウイルスはどのようになるのか？　これらの問題を解明された研究成果を紹介し、皆さんと考えてみます。

**日時**　6月14日(水)　14:00～16:30　　**【参加費無料】**

**場所**　岸和田市立図書館本館(岸城町)，3階　自習室

**定員**　40名(申込み先着順)　5月13日(土)から岸和田市立図書館(本館)で受付。

※　直接または電話（072-422-2142）でお申し込みください。

**★「図書館友の会」総会**　　午後1時～1時30分

6月14日当日、講演会の前に「図書館友の会」の総会を開催します。会員の皆さんはご出席ください。2022年度事業報告及び決算報告、2023年度 事業計画(案)及び予算(案)などを提案審議します。

## 「友の会」文章教室の公開講座　3月18日開催

文章教室講師の詩人、倉橋先生に講演していただきました。魅力ある文章を書くためにはどうしたらいいのかを先生の資料と教室生の昨年の文章を引用しながら、今を生きている自分の視点から書いて残すことの大切さを話されました。まず、一行目を書いて、一行目を書いたら次の文が見えてくるので、それを書いて段々に続けていくとそれが繋がって自分史になるのだということ。自分の視点から経験や出来事をこつこつ書いていくと後の世に貴重な記録として残っていきます。我々は高齢化社会の第一期生であるから、やりたいことをやり抜いてきちんと生きて後の人々の手本にならないといけないのだと力説されました。

参加者から詩の//は点字に翻訳するときどうしたら良いのかとか、手作りの教室文集の『文車』の体裁がきちんと揃わないのは何故だろうかなどの質問も出て楽しい時間になりました。参加された皆様、ありがとうございました。

# 「友の会」短歌教室の公開講座　3月12日開催

## こんなに面白い！今どきの短歌

図書館友の会に短歌教室が生まれたのは 1985 年。歌人・井上美地氏を講師にお迎えしました。毎月１回の教室の足跡とも言うべき１年の集大成に歌集『岸城』があり、今年第36 集を発刊するまでに至りました。

井上美地先生亡き後、昨年より金川宏先生のご指導をいただき、一同心寄せて次の一歩に勤しみたいと願っています。

この度、講師・牛隆佑(うしりゅうすけ)氏をお迎えして、短歌のあれこれをお二人に語っていただきました。

今や、短歌ブームと云われて久しい。どの結社にも属さず、歌はインターネットや新聞の歌壇欄に多く寄せられているという。

このブームは投稿先をまとめている歌誌の出版社の働きかけもあり、若い年齢層が中心となってきている。それは私個人を表現したいという若い人の強い意志の顕れではないか。その表現者たちの歌を下に挙げてみる。

**宇野なずき　三四歳**
誰ひとりきみの代わりはいないけど上位
互換がでまわっている

**木下龍也　三五歳**
ひらがなのさくせんしれいしょがとどく
さいねんしょうのへいしのために

**岡本真帆　三四歳**
南極に宇宙に渋谷駅前にわたしはきみを
ひとりにしない

**千種創一　三五歳**
手に負えない白馬のような感情がそっち
へかけていった、すまない

**初谷むい　二七歳**
爪切りを貸したら爪と爪が混ざる爪切り
の中　永く　生きてね

**岡野大嗣　四三歳**
そうだとは知らずに乗った地下鉄が外へ
出ていく瞬間がすき

**木下こう　三五歳**
春泥をあなたが踏むとあなたから遠くの
水があふれだします

**東直子　五〇歳**
いいのいいのあなたはここにいていいの
ひよこ生まれるひだまりだもの

**笹井宏之　二六歳**
ねむらないただ一本の樹となってあなた
のワンピースに実を落とす

若い世代の短歌ブーム。それだけでなく、自分だけの新しいものを見つけたい。私だけの感情を表したいと短歌にする。これらの歌にみえてくるものが短歌ブームの本質ではないだろうか。　（中川　恵美子）

# 「日根野村絵図」を歩くツアー

（再発見教室）林　由一

僕と妻の二人は，ウオーキングが好き。「岸和田市図書館友の会」主催の歩く会に参加しました。当日、２月 25 日は前日の雨も上がり，比較的歩きやすいものの、寒さはかなりのものでした。 JR 日根野駅に集合。32 名が参加しました。

ガイドは「泉佐野歴史と今を知る会」の井田寿邦先生。まず初めに「日根野村絵図」を

見ながら、井田先生が本日のコース案内を参加者にしてくれました。

鎌倉ロマンを味わいながらのコース。歴史好きには，たまらないウオーキングとなった。

往路は，日根野駅からのどかな街並み(荘官屋敷跡)を眺めながらのんびりと歩き、大井関大明神・日根神社到着。ここで一休み。

井田先生から「日根野荒野開発をめぐる略年表」を参照しながらの解説に，聞き入り，僕は，鎌倉時代における上級貴族の九条家が治めた「日根荘」の道すがら、「目」という珍しい表札を見つけては「サガン」という地域独特の呼称に感じ入り、農村の景観に春を感じるウオーキングでした。

復路は、日根神社と国宝・多宝塔の慈眼院の間を通って、現在も使われている、世界遺産灌漑施設に登録された「井川(ゆがわ)用水」に沿って，32 名の参加者が数珠つなぎとなっての歩く会。井川取水口⇒最終地点:ため池「十二谷新池」までのコース（約 2.9 ㌔）。

日根野が発展したのは、高度な土木技術と水量の豊富さが現在まで引き継がれていることに改めて歴史を感じさせられました。

午後２時，解散(JR 日根野駅)。　出発から約４時間の歩く会。僕の歩数計は 11,300 歩。6.7 ㌔を示した。でも疲れていない。

次の「歩く会」は，どんな時代にタイムスリップができるか今から楽しみにしている。

**（再発見教室）橋本正彦**

日根野を通ってその奥にある土丸へは、50 数年前から勤めていた会社の協力工場がありましたので、発注・連絡等でよく通ったものですから、懐かしい気持ちで参加しました。

井田先生に先導されて久米田寺が作成した絵図や開発の略年表にそってご説明をお聞きしながら、開発の歴史跡や古刹等を巡りました。そのご説明により、この地域の開発が古くから進んでいったことを教わりました。

岸和田に 50 数年住みながら、また日根野に数 10 年通いながら、泉州地域の歴史になんと無頓着に過ごしてきたものかと呆れています。もし今回の歩くツアーに参加していなかったら、50 数年もの間仕事や友人関係で交流のあった日根野の歴史を知らぬままに終わってしまうところでした。

日根野だけでなく岸和田、貝塚、泉佐野等、泉州地域の歴史については 3 年前に退職してから図書館友の会に入会して歴史教室で学んでいなかったら、無知のままで人生を終わってしまうことになりそうでした。

これからもいろいろな物の歴史に興味を持ち続けていこうと思っています。

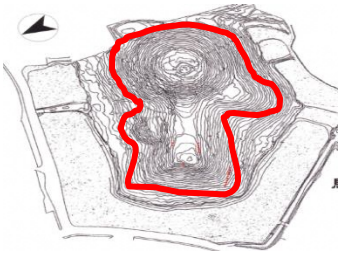
**歴史カフェ：**　５月６日（土）10 時～正午

**摩湯山古墳・久米田貝吹山古墳とヤマト王権の形成**

八木市民センター
２階　講座室１
（話）杉原富人さん

図書館友の会岸和田再発見教室　公開講演会

# ヤマト王権と摩湯山古墳・久米田古墳群



和泉最大の前方後円墳
摩湯山古墳

**講師：西川　寿勝　氏**

**（大阪府立狭山池博物館・元学芸員）**

４・５世紀の久米田地域の古代史について、近年の発掘成果やヤマト王権の研究からひも解きます。４世紀中ごろに築造された全長 200mをほこる摩湯山古墳の被葬者は？　５世紀の久米田古墳群との関係は？　百舌鳥・古市古墳群が造られていたころの泉州の歴史を皆さんと考えてみましょう。

日時　６月１７日（土）　13:30～16:30，参加費無料
場所　**岸和田市立八木市民センター（池尻町），２階　講座室１**
定員　80 名（申込み先着順）
5 月 12 日（金），10：00 より岸和田市立図書館（本館）で受付。
※　直接または電話（072-422-2142）でお申し込みください。

**【主催】岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会・岸和田市立図書館**

## 地名の秘密

## ㉔加太（かだ）　千葉にもルーツあり

和歌山市にある地名「加太（かだ）」。南海沿線に住む人には、馴染みの地名。加太は万葉の時代から「潟見の浦（かたみのうら）」と呼ばれる景勝地。古代には「賀太郷」と記され、江戸期には「加太浦」と呼ばれた。

加太という地名は「干潟（ひがた）」が由来だという説が有力。古くから、淡路島・四国への渡海港として栄え、南海道の駅家・加太郷が設置されていた。江戸期には諸国廻船の寄港地、渡海船の根拠地の機能を兼ね、大阪や堺と並ぶ商業港と称されていた。

加太の人々が千葉県九十九里浜に移住し、港を開いたことから、片貝（かたがい）という地名がうまれている。

「加太」の読み方には（かぶと/かた/かだ）がある。加太村（かぶとむら）は三重県の中部、鈴鹿郡にあった。この由来は「湖沼（こしょう）」のカタからきており和歌山の加太とはルーツは別。現在も加太駅（かぶとえき）が JR 西日本関西線にある。愛知県にも鹿伏兎（かぶと）という地名があるが、平氏の子孫に由来するのでルーツは別。

大阪府富田林にも加太（かだ）という地名があることを、私は初めて知ったが和歌山の加太との関係は分らない。富田林から紀州路に行く起点かなあ？

【資料】　地名の謎と歴史　kkベストセラーズ。南海沿線の不思議と謎　実業の日本社。
その他インターネット資料　　【文責】　文章教室　浦田榮二